

令和6年度（2024年度）

宝塚市下水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



目 次

1. 予算編成方針	．．．．．	1
2. 業務の予定量	．．．．．	1
3. 予算の規模	．．．．．	1
4. 予算の詳細	．．．．．	2
5. 主要施策（雨水事業）	．．．．．	4
6. 主要施策（汚水事業）	．．．．．	5
7. 管路の耐震化の状況	．．．．．	6
8. 主な経営数値	．．．．．	7
9. 職員の内訳	．．．．．	8

1. 予算編成方針

水道料金について、昭和55年以来の料金改定が令和6年度に行われます。国内外の社会情勢の変化による物価上昇が続く中、使用者にとっては大きな負担増となり、今、上下水道事業に厳しい目が向けられています。そのため、これまで以上に無駄のない経営に努めることとします。

令和3年8月に見直しを行った宝塚市下水道事業経営戦略に計上した「浸水対策事業」や「武庫川ポンプ場改築事業」「重要な污水管路の更新事業」を事業の基礎としつつ、デジタル技術等を活用した取組を行います。

2. 業務の予定量

(1) 年度末水洗化人口 224,970人

(2) 年間有収水量 22,815,227^m

住民基本台帳人口は、令和5年4月と令和5年11月を比較して846人減少しているため、年間の人口減少を1,400人と見込み、令和6年度の年度末水洗化人口を計上しています。

過去の有収水量を相関分析することにより、令和6年度の年間有収水量を計上しています。

(人)

	水洗化人口	増減
令和元年度(決算)	229,350	-
令和2年度(決算)	228,759	△591
令和3年度(決算)	227,864	△895
令和4年度(決算)	226,429	△1,435
令和5年度(予算)	226,370	△59
令和6年度(予算)	224,970	△1,400

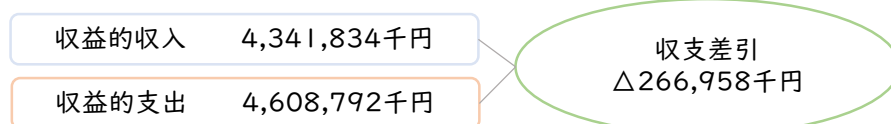
(m³)

	有収水量	増減
令和元年度(決算)	23,183,140	-
令和2年度(決算)	23,730,936	547,796
令和3年度(決算)	23,444,797	△286,139
令和4年度(決算)	22,965,897	△478,900
令和5年度(予算)	23,216,668	250,771
令和6年度(予算)	22,815,227	△401,441

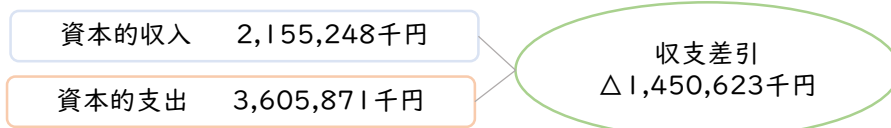
3. 予算の規模

令和6年度の支出総額(収益的支出と資本的支出の合計額)は8,214,663千円で、令和5年度の当初予算と比較して852,779千円増加しています。これは、前年度(令和5年度)と比較して、建設改良費が406,578千円増加、企業債償還金が336,972千円増加したことなどが主な原因です。

(1) 収益的収入及び支出



(2) 資本的収入及び支出



4. 予算の詳細

(1) 収益的収入及び支出

(千円)

区分	令和6年度(当初)	令和5年度(当初)	増減	前年比(%)	備考	
収入	1 営業収益	3,153,774	3,146,681	7,093	100.2	
	(下水道使用料)	(2,436,895)	(2,481,304)	(△ 44,409)	(98.2)	※1
	(雨水処理負担金)	(707,912)	(657,391)	(50,521)	(107.7)	※2
	(他会計負担金)	(6,870)	(7,378)	(△ 508)	(93.1)	
	(その他営業収益)	(2,097)	(608)	(1,489)	(344.9)	
	2 営業外収益	1,187,759	1,169,495	18,264	101.6	
	(受取利息)	(0)	(3)	(△ 3)	(皆減)	
	(国庫補助金)	(25,500)	(500)	(25,000)	(5100.0)	※3
	(他会計負担金)	(55,233)	(49,387)	(5,846)	(111.8)	
	(他会計補助金)	(398,429)	(406,205)	(△ 7,776)	(98.1)	
	(長期前受金戻入)	(703,619)	(708,464)	(△ 4,845)	(99.3)	
	(その他営業外収益)	(4,978)	(4,936)	(42)	(100.9)	
	3 特別利益	301	501	△ 200	60.1	
(固定資産売却益)	(1)	(1)	(0)	(100.0)		
(過年度損益修正益)	(300)	(500)	(△ 200)	(60.0)		
計	4,341,834	4,316,677	25,157	100.6		
支出	1 営業費用	4,236,053	4,105,514	130,539	103.2	
	(人件費)	(164,648)	(160,071)	(4,577)	(102.9)	
	(修繕費)	(243,355)	(242,213)	(1,142)	(100.5)	
	(委託料)	(244,376)	(157,727)	(86,649)	(154.9)	※4
	(負担金)	(186,796)	(171,858)	(14,938)	(108.7)	
	(流域下水道維持管理費)	(1,203,309)	(1,162,182)	(41,127)	(103.5)	※5
	(減価償却費)	(2,132,040)	(2,150,858)	(△ 18,818)	(99.1)	
	(その他)	(61,529)	(60,605)	(924)	(101.5)	
	2 営業外費用	361,238	382,548	△ 21,310	94.4	
	(支払利息)	(201,238)	(222,548)	(△ 21,310)	(90.4)	※6
	(消費税)	(135,000)	(135,000)	(0)	(100.0)	
	(その他営業外費用)	(25,000)	(25,000)	(0)	(100.0)	
	3 特別損失	1,501	1,501	0	100.0	
(固定資産売却損)	(1)	(1)	(0)	(100.0)		
(過年度損益修正損)	(1,500)	(1,500)	(0)	(100.0)		
4 予備費	10,000	10,000	0	100.0		
計	4,608,792	4,499,563	109,229	102.4		
収 支 差 引	△ 266,958	△ 182,886	△ 84,072			

※1 (減額理由) 人口減少及び節水機器の普及等による有収水量減少のため。

※2 (増額理由) 調整池維持管理費の増加額11,328千円、経営戦略等策定業務委託のうち雨水分17,878千円、第2期ストックマネジメント計画のうち雨水分17,500千円などのため。

※3 (増額理由) 第2期ストックマネジメント計画策定に係る補助金25,000千円。

※4 (増額理由) 第2期ストックマネジメント策定業務委託50,000千円、経営戦略等策定業務委託35,757千円などのため。

※5 (増額理由) 武庫川下流域下水道における修繕費の増などのため。

※6 (減額理由) 企業債残高減少のため。

(2) 資本的収入及び支出

(千円)

区分		令和6年度(当初)	令和5年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収 入	1 企業債	2,017,900	832,300	1,185,600	242.4	※7
	2 国庫補助金	45,000	57,000	△ 12,000	78.9	
	3 他会計負担金	88,927	147,023	△ 58,096	60.5	
	4 工事負担金	2,751	5,812	△ 3,061	47.3	
	5 水洗便所改造資金回収金	670	690	△ 20	97.1	
	6 固定資産売却代金	0	1	△ 1	皆減	
	計	2,155,248	1,042,826	1,112,422	206.7	
支 出	1 建設改良費 (事務費)	1,473,439 (64,677)	1,066,861 (62,862)	406,578 (1,815)	138.1 (102.9)	※8
	(公共下水道整備費)	(1,123,947)	(765,784)	(358,163)	(146.8)	
	(流域下水道整備費)	(198,557)	(188,815)	(9,742)	(105.2)	
	(固定資産購入費)	(86,258)	(49,400)	(36,858)	(174.6)	
	2 企業債償還金	2,121,352	1,784,380	336,972	118.9	※10
3 貸付金	1,080	1,080	0	100.0		
4 予備費	10,000	10,000	0	100.0		
	計	3,605,871	2,862,321	743,550	126.0	
収 支 差 引		△ 1,450,623	△ 1,819,495	368,872		

資本的収支不足額1,450,623千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※7 (増額理由) 資本費平準化債の借入額が714,000千円増加、雨水事業に係る借入額が274,600千円増加したため。

※8 主な内容は以下のとおりです。

浸水対策事業 499,650千円 (詳細は4ページに記載)

武庫川ポンプ場改築事業 67,375千円 (詳細は4ページに記載)

管路等更新事業 244,570千円 (詳細は5ページに記載)

重要な汚水管路の更新事業 278,100千円 (詳細は5ページに記載)

未水洗化区域施設整備事業 24,150千円 (詳細は5ページに記載)

※9 主な内容は以下のとおりです。

遠方監視クラウド化事業 67,876千円 (詳細は4ページ、5ページに記載)

※10 (増額理由) 資本費平準化債425,000千円の借換があるため。

5. 主要施策（雨水事業）

（1）浸水に対する取組

① 浸水対策事業（予算額499,650千円）

近年頻発しているゲリラ豪雨にも耐えられるよう、雨水排除能力の強化に取り組めます。

場所	内容
向月町	雨水排水施設の強化
星の荘	雨水排水施設の強化

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



② 調整池維持管理事業（予算額21,328千円）

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図ります。

場所	内容
すみれが丘1丁目	機械除草 3,400㎡ 樹木除去 600本

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料



（2）老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業（予算額67,375千円）

昭和50年の運用開始から45年以上が経過し、老朽化が進んでいます。機械設備のダウンサイジングを図りつつ、改築を行います。

場所	内容
武庫川町	ポンプ場施設の耐震補強による改築詳細設計

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（3）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額42,900千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
良元地区	水門ゲートのクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



6. 主要施策（汚水事業）

（1）老朽化に対する取組

① 管路等更新事業（予算額244,570千円）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査結果を踏まえて更新を行います。また、第2期下水道ストックマネジメント計画の策定を行います。

場所	内容
中山桜台 外	コンクリート管 更新工事 L = 1200m
市内一円	下水道ストックマネジメント計画策定 L = 60km

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（2）耐震化の取組

① 重要な汚水管路の更新事業（予算額278,100千円）

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路について耐震化工事を行います。

場所	内容
福井町 ～亀井町	コンクリート管（φ1000） L = 800m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（3）未水洗化区域解消の取組

① 未水洗化区域施設整備事業（予算額24,150千円）

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるように、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組みます。

場所	内容
千種1丁目 外	汚水管路（φ200） L = 60m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（4）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額24,976千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
市内一円 (16箇所)	汚水流量計のクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



7. 管路の耐震化の状況

(1) 重要な汚水管路の耐震化率

損傷した場合に使用者への影響が大きい汚水管路、社会的影響が大きい緊急輸送路や軌道の下などに埋設された汚水管路の耐震化率です。

令和5年度は山本野里1号汚水幹線（延長L = 1,366m）の耐震化に取り組みましたが、実施予定であった中筋汚水幹線の詳細設計に時間を要し、繰越となることから、目標値を8ポイント下回る見込みです。なお、最後の路線である宝塚汚水幹線についての詳細設計が完了しており、令和6年度には目標値を上回る予定です。

（管路延長 L=6,900m）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
目標値 (%)	47.4	57.9	68.4	79.0	89.5
実績値 (%)	40.7	56.9	64.1	71.0	90.0

(2) 汚水管路の耐震化率（全管路対象）

汚水管路総延長に対する耐震汚水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の割合です。宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施していますが、令和5年度は1.4ポイント、令和6年度は1.7ポイント、目標値を下回る見込みです。今後も確実に汚水管路の耐震化を行い、目標の達成に努めます。

（全管路延長 L=522,454m）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
目標値 (%)	20.5	21.4	22.4	23.3	24.2
実績値 (%)	20.6	21.2	21.4	21.9	22.5

※ 目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

8. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%超で利益が生じています。全国平均106.1%、類似団体平均106.8%（令和4年度）と比較すると、本市の数値は低くなっており、令和6年度は100%を下回る見込みです。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
経常収支比率 (%)	106.1	99.6	102.2	100.7	98.9

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

令和5年度は黒字を維持する一方、令和6年度はわずかに赤字となる見込みとなっています。未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。なお、令和3年度に純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
当年度純利益 (千円)	239,675	0	119,829	28,173	△47,665
未処分利益剰余金 (千円)	2,598,940	2,598,940	2,718,769	2,746,942	2,699,277

(3) 借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和6年度は3億円の借入を予定しています。令和6年度までは借入が必要と見込んでいますが、令和7年度以降、企業債償還元金の減少により資金不足が解消され、それまでの借入金を少しずつ返済できる見込みです。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
借入金残高 (千円)	670,000	970,000	1,270,000	1,570,000	1,870,000

(4) 汚水処理原価及び使用料単価

使用料単価は1㎡あたりの平均収益、汚水処理原価は1㎡の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
使用料単価 (円)	87.1	96.6	91.8	96.7	97.1
汚水処理原価 (円)	108.4	112.3	114.4	116.0	120.8
差引 (円)	△21.3	△15.7	△22.6	△19.3	△23.7

9. 職員の内訳

平成30年度（実績人数）から令和6年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。令和5年度にストックマネジメント計画を円滑に推進するために技術職員を1名増員しています。令和6年度も令和5年度と同様23人の予算を計上しています。

(人)

平成30年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	11	2	18
	再任用職員	1	4	0	5
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	6	15	2	23
平成31年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	11	1	18
	再任用職員	1	4	0	5
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	13	1	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	13	1	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	15	1	22
令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	16	0	22
令和5年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	3	0	4
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23
令和6年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	15	0	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23

※ 平成30年度から令和5年度までは実績人数、令和6年度は予算措置人数